

校長の石川です。皆さん、期末テスト、お疲れさまでした。

とんぼ祭まであと2週間。いよいよとんぼ祭の準備期間が始まります。今日は準備開始にあたり、先輩の同窓生の皆さんや先生方からうかがってきた「とんぼ祭の精神」を一方的に話させてもらいたいと思います。参考にしてもらえるとありがたいです。

とんぼ祭の原点にあるものは、とんぼ祭記念の歌にもありますように、「求めてやまない智の聖火を燃やす」ことです。言い換えると、学芸協議会や各企画団体の皆さんにとっては、真理の探究に、あるいは真実の追求に、そして芸術の探究に、これまで努力を重ねてきた日常の思索と行為の集大成を示す場であることに他なりません。すなわち、その発表内容によって、自分たちの積み重ねたものが評価されるのですから、自分たちの真価が問われるものと思って、これから2週間必死に準備をしてください。

これに加えて、祭りの要素としては、娯楽の場であることと、結集の場であることがあげられます。日常を離れ、皆が思いっきり楽しむ娯楽の場を提供するためには、相当な準備が必要となるはずですが。特に安全性の確保、互いの人権の尊重はミスが許されません。もし何らかの事故やハラスメントが発生したり、学校の休業等が起こった場合、この娯楽の要素はどうなるのか、想像をしてみてください。

そして、3つ目の深志生の結集の場についてですが、それぞれが形成した社会的集団、すなわち生徒会本部・委員会において、実行委員会各係において、部活において、企画団体において、郷友会において、クラスにおいてなどで、縁ある友と心をつなげて手を取り合っているとんぼ祭をつくりあげてほしいと思います。意見が異なり対立することもあるかもしれませんが。その時ほど、どのようにお互いを尊重し合い、傷つけることなく方向性を定めるのか、まさに自治の真価が問われる時でしょう。そのためにも、これから短縮授業となる2週間の準備期間の中で、早め早めに打ち合わせを開始して、意見の違いや互いの考え方を共有することのできる時間を十分に取れるよう、そして助け合うことができるよう、有効な期間として活用をして下さい。間際になって相談して、すれ違ったり納得しなかったり、一方的な思いを押し付けても、楽しい結集の場には決してならないのではないかと私はと思いますが、みなさんいかがでしょうか。

自治の伝統、とんぼ祭の精神を身をもって示す、そうした意気込みで、準備期間及び本番を創造して欲しいと願っています。

最後に本日ワックスがけを担当される皆さん、ご苦労様です。よろしく願いいたします。